

ひょうたんいけ

桜台小 学校だより
令和5年2月13日
第59号



日頃から、保護者の皆様による感染症対策へのご理解・ご協力、大変感謝しております。本校はこの1週間、全校での体調不良による欠席者が毎日5～10人という状態が保たれています。3月20日(月)には卒業式が控えています。今後もしっかりと感染症対策を取り、6年生が全員揃って卒業式を迎えられるように、学校として取り組んでいきますので、引き続き、感染症対策へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

※学校ホームページ「桜台っ子ニュース」では、日々の学校の様子をカラーで紹介しています。



5年生で、人権学習の授業を行いました。

2月7日(火)、5年生で人権学習を行いました。授業では「字の大切さ、学ぶ意義を考えよう」というねらいで、ETV特集「なまえをかいた～吉田一子・84歳～」の編集版(24分)を使い、識字について考えました。

吉田一子さんは、大正14年生まれで、早くに母親を失くし、戸籍に入ることもなく学校に行く機会を失ったまま成長しました。字を学び始めるのは60歳で、鉛筆の持ち方から始め、20年近くかけてひらがなの作文をかけるまでになったそうです。そんな時、駅で落書きを見つめます。字が読めるようになり、「字が落書きに使われるなんて、かわいい字がかわいそう」と涙したといいます。70歳の時「なまえをかいた」と題する作文を書き上げます。そこには、学校に行けなかった少女時代の悲しい思い出や、自分で自分の名前が書けなかったために、銀行で年金が下ろせずに悔しい思いをした体験談などが切々とつづられています。映像では、随所に必死に字を獲得しようと頑張っている吉田さんの姿が映し出され、エンディングでは、子どもたちの前で披露した『母』という字を子どもたちに「きれい」とほめられ、家に帰ってから、母の字を一所懸命練習する姿が映し出されていました。吉田一子さんの日常を通して、子どもたちには「文字や言葉は、使い方によっては人を傷つけたり、つながりを切ったりすることにもなる」こと、「文字や言葉は人間の豊かさで、人と人との関係をつなぐものである」ことに気づいてほしいと思いました。



昨今SNS等の情報機器の使用が大きな社会問題となっています。子どもたちには、今回の授業をきっかけに、自分自身の日常生活を振り返り、自分の言動が相手(ひと)を傷つけていないか、人と人との関係を切ることに繋がっていないかなど、文字を学ぶこと本来の意義について、原点を見つめ直してほしいと思います。

自転車に乗る時は、必ずヘルメットの着用を！

市内においては、今年度4月から1月23日現在、児童生徒の交通事故が87件報告されています。子どもたちの交通事故の約77%が自転車乗車中に起こっており、その中で、ヘルメットの着用は、小学生が23%と、放課後や休日などの着用率が低い状況にあります。

三重県では令和3年10月1日より自転車損害賠償責任保険等への加入が義務化されており、令和5年4月1日からは自転車乗車時のヘルメット着用が義務化となります。配付資料などをご活用いただき、ご家庭でも自転車乗車時の交通ルールの確認や交通安全指導等をよろしくお願いいたします(裏面にも関連資料があります)。



金網をくぐって運動場に入らないように！

休日や放課後に、学校の南西の角から金網をくぐって運動場へとやってくる子がいるようです。現在、赤いコーンと黄色い棒を使って、入らないように注意喚起をしています。金網をくぐると、2mほどの高さからジャンプをしないと運動場に降りることができません。着地を失敗すると、骨折などの大ケガにもつながりますので、絶対にここから入らないように、ご家庭でも指導へのご協力をお願いします。



(文責 北住 昌文)